第19回ノースアジア大学文学賞

第19回ノースアジア大学文学賞は、8月17日(月)をもちまして応募締切とさせていただきました。

今年も全国各地から、沢山の作品のご応募がありました。数多くの珠玉の作品をご応募いただき、誠にありがとうございました。

今年度は12月5日(土)に、「第19回ノースアジア大学文学賞授賞式」を開催いたします。

どうぞお誘い合わせの上、お越しくださいますようお願い申し上げます。

選考内容

＊＊部門＊＊

Ⅰ 高校生の部門　エッセイ(自由作品)の部

◎最優秀賞…賞状と記念品(５万円相当の旅行券)
◎優 秀 賞…賞状と記念品(３万円相当の旅行券)
◎選考委員特別賞
…賞状と記念品(９千円相当の図書券)
◎学 校 賞…賞状と記念品

Ⅱ 大学生・一般の部門　①エッセイ(自由作品)の部
②短編小説の部

◎最優秀賞…賞状と記念品(５万円相当の旅行券)
◎優 秀 賞…賞状と記念品(３万円相当の旅行券)
◎選考委員特別賞
…賞状と記念品(９千円相当の旅行券)

※それぞれの部で優秀賞は複数選びます。
※短編小説の部は、大学生・一般の部門のみの募集となります。
※特に優れた作品を応募された高等学校には、学校賞を送ります。

◇第18回ノースアジア大学文学賞授賞式 記念写真◇



令和7年11月16日(日)　於　ノースアジア大学四十周年記念館講堂

第19回ノースアジア大学文学賞授賞式

文　学　賞　授　賞　式

開催日時　12月５日㈯　午後1時00分～2時15分（開場12時30分）授賞式
会　　場　ノースアジア大学 40周年記念館3階 講堂

◆◆文学賞選考委員＆文学賞へのメッセージ◆◆



佐伯　一麦

プロフィール

現　職
小説家
仙台文学館館長

履　歴
1959年仙台市生まれ。
おもな小説に『鉄塔家族』（大佛次郎賞）、『ノルゲ』（野間文芸賞）、『還れぬ家』（毎日芸術賞）、『渡良瀬』（伊藤整文学賞）、『山海記』（芸術選奨文部科学大臣賞）、『アスベストス』、『ミチノオク』、『水平と垂直』。ほかにもエッセイ集『月を見あげて』、『Nさんの机で』、など著作多数。

私は樹木が好きで、野山を歩きながらはもちろん、街を歩けば街路樹に、電車に乗れば車窓から目を向かわせます。

さまざまな姿形をした樹々があります。すらっと伸びた形のよい樹。どっしりとした風格のある樹。幹がちょっと曲がっていたり、枝がねじれていたりする樹もそれぞれに味わいがあります。

それらの樹々を目にしていると、エッセイや短編小説も同じだよなあ、とつくづく思わされます。もちろん文章が整っていて内容が面白い作品もありますが、少しぐらい文章の乱れがあっても、その人ならではの経験、観察、考察が活かされた作品は、読む楽しみを与えてくれます。

そしてまた、エッセイには、「思考を試し、表現を試みる」という意味合いもあります。書いてみることで、書く前には思ってもみなかったことが自分の裡に潜んでいることに気が付くこともあるでしょう。

選考にあたり、そんなヴィヴィッドな作品に出会えることを心待ちにしています。



塩野　米松

プロフィール

現　職
作家
聞き書き甲子園最終選考委員

履　歴
秋田県仙北市角館町生まれ
東京理科大学理学部　卒業
法隆寺の棟梁西岡常一、小川三夫、その弟子達、３代の宮大工達の聞き書き「木のいのち木の心」をはじめ職人、森人、漁師達の聞き書き多数。
芥川賞候補４回。絵本「なつのいけ」（絵・村上康）で、日本絵本大賞受賞。

『メモのすすめ』

よくメモを取る。用紙はカレンダーを八つに切ったものが多い。クリップで留めて鞄の中に入っている。机の上には、裏が白いプリントした紙を石を文鎮にして積んである。客用のテーブルには、昨年のカレンダーを裏返しに重ねてある。客との話をメモしたり、説明図を描いたり、本の気になった言葉などが乱雑に書かれている。毎日の山歩きには、フィールドノートを使う。買い物用や用事にはそれ用がある。気づいたこと、疑問、思いつき、違和感、これはと思ったことはメモする。出来事や見たものを文字にする日常が、何かを生み出すきっかけになっている。そしてエッセイや物語の一シーンや書評のアクセントになることも。種子を植えなければ、花も咲かず、葉もでない。私にとってメモの束は種子袋だ。書こうとするあなた達におすすめしたい。